

そうだったのか！

最近の歴史研究の成果を受けて、私たち大人が子どものころ学んだ内容と、今の学習内容では、いくつか変わっている点があります。

例えば、私たち大人が学習してきた江戸時代の身分制度では、「上見て暮らすな、下見て暮らせ」という言葉に代表されるように、辛く厳しい生活だったと学習しました。

しかし、今は、次のように学習しています。

○ 江戸時代の民衆は、私たちが考えているより豊かな生活をしていました。

○ 「百姓や町人とは別に、身分上きびしく差別されてきた人々」は、協力し合い、高度な専門的知識や技術をもって人々の生活に必要な物を作り、医学の発達等にも貢献するなど、当時の社会全体を支え、たくましく生きていた。



～ 目次 ～

- 1 中世文化を支えた人々
- 2 支配のしくみとしての差別
- 3 身分制社会の成立
- 4 医学への貢献
- 5 立ち上がる民衆
- 6 解放の法令出る
- 7 残された差別
- 8 水平社による運動
- 9 平等な社会を目指して
- 10 現在の日本の解決すべき課題



それでは、私たち大人も、正しい知識を身に付けることを始めましょう！

きっと「そうだったのか！」と思うことがあるはずですよ！

1 中世文化を支えた人々

<中世の文化>

銀閣には、美しい日本庭園があります。この日本庭園は、この時代に、身分の上で差別されていた人たちがつくりました。この人たちは、庭づくりや芸能で活やくしました。



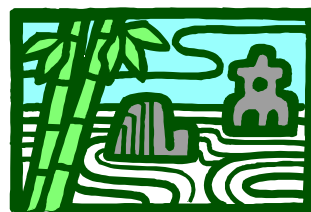
<子どもたちが学習する内容>

学習のポイント

このころは、死や自然に対するおそれがあり、それに関わる人々は、「特別な人」と考えられ、彼らの多くが居住した河原も人間の力の及ばない特別な場所と考えられていました。人々はそうした人たちに対して「^{いけい}畏敬・^{いふ}畏怖」の気持ちをもっていました。一方、「自分たちとは違う存在」と見なし、差別するようになったと考えられています。

この頃の身分は固定されたものではなく、特別な仕事に関わる人を差別していました。しかし、その中には社会を支え、社会にとって必要な産業や芸術を担った人たちが数多く見られました。

例えば、室町時代、将軍足利義満の保護を受けた観阿弥、能を大成した世阿弥、山水画の相阿弥、銀閣寺などの庭園を造った善阿弥、その子の小四郎、孫の又四郎らがいました。



<まとめ>

死・自然（災害等）に対するおそれ

- ・ 神に奉仕する仕事
 - ・ 庭園造りなどの仕事
 - ・ 人や動物の死体の片付け
 - ・ 牛や馬などの解体 など
- 社会に必要な産業や芸術
生活を支える大切な仕事



「ケガレを取り除く
力をもっている
特別な人」



「自分たちとは
違う存在」



畏敬・畏怖

敬遠・排除

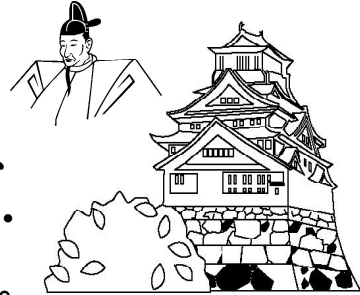
これらの人たちは、社会で大切な役割を果たしていました。民衆の意識というのは社会の関係の中で変わることや、差別は全く根拠のないものであることがわかります。

2 支配のしくみとしての差別

室町時代から江戸時代にかけての「身分制度」についてです。

<身分の流動化・再編成>

検地や刀狩りで、武士という身分と、百姓・町人（商人・職人）という身分に分けられました。そして、武士と町人は、城下町に住みました。百姓は、農村・漁村・山村に住み、農業や漁業、林業に従事しました。



<子どもたちが学習する内容>

学習のポイント①



戦国時代は、「下剋上」に代表されるように、身分そのものが、はっきりと固定されていませんでした。

この時代には、戦のために武具や馬具などが必要であり、皮革を生業とする多くの技術者集団が必要でした。

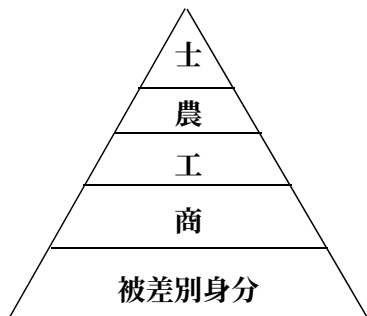
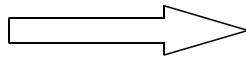


大名は彼らを保護しながら、身分の編成をしていきました。

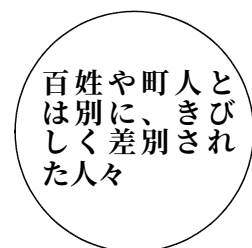
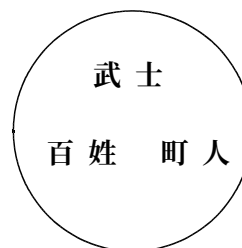
その後、豊臣秀吉による検地や刀狩りなどによって、武士が支配する社会のしくみができていきました。

学習のポイント②

江戸時代の身分についての認識は、次のように変化しています。



※ 百姓や町人の「下にいる」という捉え方はしません。

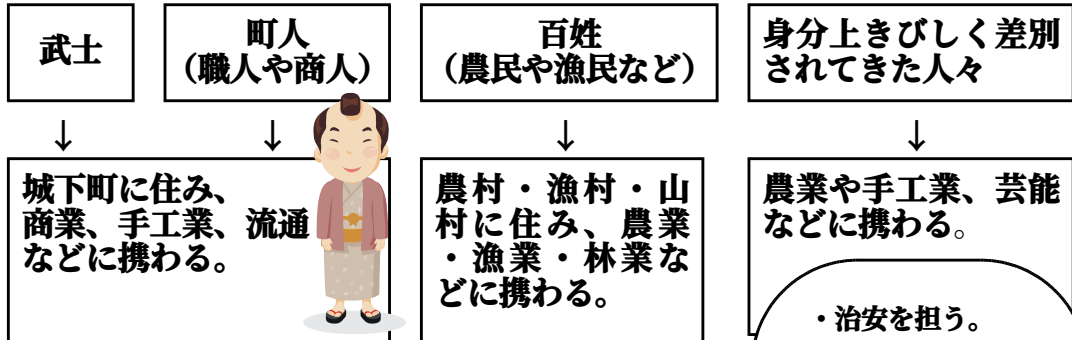


※ 百姓や町人とは「別の存在」という捉え方をします。

3 身分制社会の成立

<江戸時代の身分制度>

基本的に、住んでいるところによって身分が決められていて、それぞれが、社会を支えていました。



その他、皇族、公家、僧侶、神官、役者、絵師、学者、医者など多くの身分がありました。

- ・治安を担う。
- ・伝統的な文化を伝える。

<子どもたちが学習する内容>

学習のポイント①

江戸時代になると身分制社会が成立します。それは、身分・住居・職業が固定化されていく時代でした。

様々な身分があり、百姓や町人とは別にきびしく差別されてきた身分の人々もいました。それらの人々は住む場所を制限されたり、不合理な差別を受けることもありましたが、生産と労働に携わり、たくましく生き抜きました。

学習のポイント②



子どもたちは、百姓や町人とは別に、身分上きびしく差別されてきた人々の**たくましさ**や**温かさ**を感じ取ります。

そして、当時の人々の生活必需品を作り、その時代の生産・流通を支えていたことや、様々な職業に就いて、**経済的な豊かさ**を確保していたことも学習します。

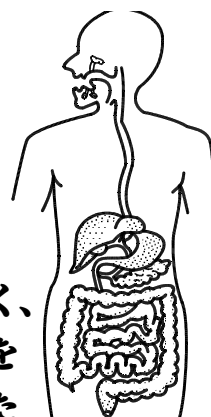
4 医学への貢献

<医学を支えた人々>

江戸時代の中ごろ、西洋の学問を学ぶ人が増えました。
そのため、医学も急激に進歩しました。

藩医の杉田玄白や前野良沢は、オランダの医学書を
翻訳して、「解体新書」を著しました。

しかし、彼らには、人体についての知識も正確ではなく、
解剖する技術ありませんでした。そこで、実際に解剖を
行ったのは、町人や百姓とは別にきびしく差別されてきた
人でした。



<子どもたちが学習する内容>

学習のポイント①



身分上きびしく差別されてきた人の中には、医
者や産婆、薬売りを職業とする人も数多く見られ
ました。



彼らのもっている優れた技術や科学的な知識は、生命に向かい
合う暮らしの中で培われたものであり、それがこの時代の医学を
支えていました。

学習のポイント②

「身分上きびしく差別されてきた人」という言葉
からは、「貧しい」「苦しい」というイメージをも
つ人が多いと思います。

しかし、今、小学校では、「高度な技術」「専門
的な技能」をもち、当時の生産・流通、伝統文化
を担い、「社会を支えた」「経済的に豊か」という
面を教えています。子どもたちは「身分上きびしく
差別されてきた人々」が、たくましく誇りある生き
方をしていたことを学び、次の学習に進みます。



5 立ち上がる民衆

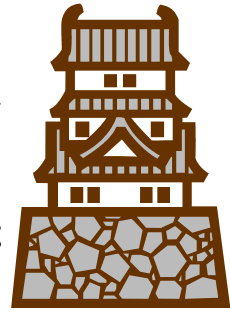
<渋染一揆>

岡山藩は、財政立て直しのため、百姓や町人、きびしく差別されてきた人々に対して、節約するように命令しました。

特に、身分上きびしく差別されてきた人々に対しては、渋や藍でそめた無地の木綿以外の着物を着てはいけないなどの命令を出しました。

それに対して、みんな同じように年貢をおさめているのに、これはおかしいことだと、彼らは、立ち上がりました。

<子どもたちが学習する内容>



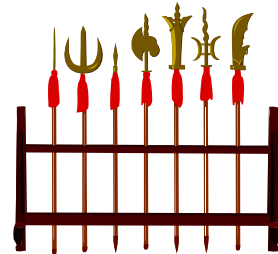
学習のポイント①



江戸時代の後半になると、封建体制が揺らぎ始めました。そのため、幕府や藩は身分制度を引き締め、生活の中のあらゆることを規制することで、差別を強化する政策を打ち出しました。

それに対して、民衆は団結し、一揆などで激しく抵抗するようになりました。

こうした中で、身分上きびしく差別されてきた人々も、人間の誇りを取り戻すために、百姓や町人と同じ権利の獲得を目指し、立ち上がりました。



学習のポイント②



身分上きびしく差別されてきた人々の中には、経済的に豊かな人もたくさんいました。

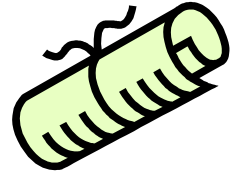
この一揆は、差別的な命令に対し、同じ年貢を払っている百姓と同じ権利を非暴力で主張した、人間としての誇りをかけた闘いでした。

その結果、差別的な命令を実施させなかったという画期的な出来事でした。

6 解放の法令出る

<本当の平等を求めて>

身分制度によって長い間、差別に苦しめられてきた人々は、1871年の法令（※1）により身分上は解放されました。



しかし、政府は、差別をなくすための政策等を行いませんでした。そのため、自分が希望する仕事に就くことや教育を受けることができないため、生活は苦しくなり、結婚、就職、居住など、日常生活での差別は残りました。

そこで、これらの人々は、差別をなくすための運動を進めました。

<子どもたちが学習する内容>

※1 1871（明治4）年に明治政府は身分の廃止などを記した太政官布告を出しました。これが、いわゆる「解放令」です。

学習のポイント



「解放令」により、江戸時代からの身分制度が廃止され、結婚や居住移転、職業選択の自由などが認められました。

明治維新後の新政府は、中央集権体制を整え、近代化を図るとともに、富国強兵政策を進めました。



新政府は、「解放令」を出し、それまでの身分制度をなくしました。

しかし、それにもかかわらず、生活の中の差別はなくなりませんでした。どうしてでしょうか。

次は、このことについて、学習しましょう。



7 残された差別

身分制度がなくなったにもかかわらず、差別はなくなりませんでした。



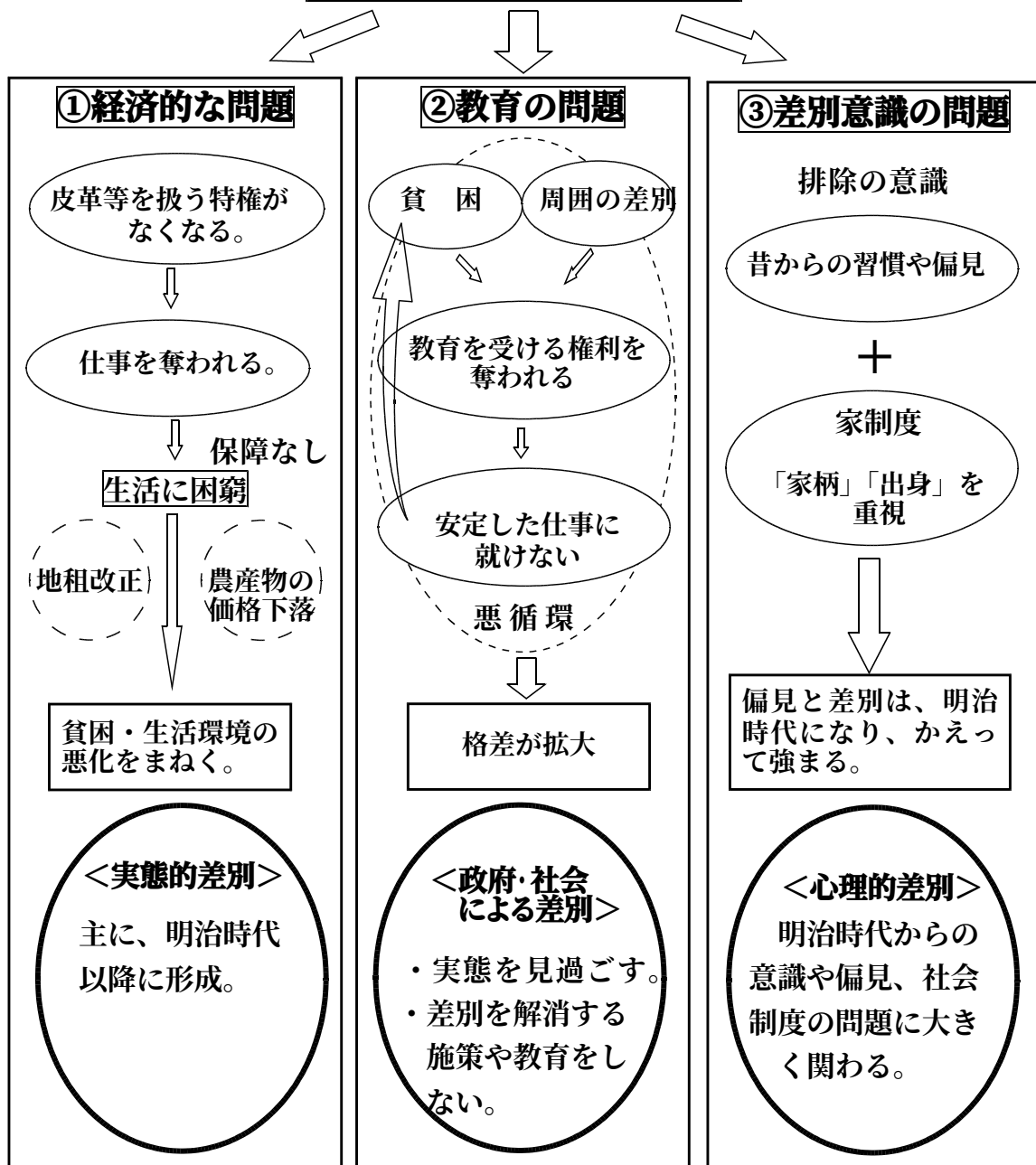
なぜ差別が残されたのだろう…？



学習のポイント

そこには、①経済的な問題、②教育の問題、③差別意識の問題があると言われます。

差別が残された理由



8 水平社による運動

<水平社宣言>

明治になって、「解放令」が出てからも、結婚や就職などの差別は、解消されませんでした。そこで、差別に苦しめられた人々は、全国水平社をつくり、差別をなくすための運動を始めました。

1922（大正11）年3月、京都市岡崎の公会堂で、全国水平社の創立大会が開かれました。

この大会の宣言（水平社宣言）では、人間を差別することは許されないことだと決議されました。当時16歳の少年代表者である山田少年は、「差別をなくしましょう。そして、差別のない新しい世の中にしましょう」とよびかけました。

（写真提供：財団法人 水平社博物館）



《全国水平社の「綱領」「宣言」》

<子どもたちが学習する内容>



山田少年が呼びかけた後、会場はわれんばかりの拍手と歓声で埋め尽くされたそうです。



学習のポイント①

「水平社宣言」は、「日本初の人権宣言」と言われています。「人間は尊敬すべきものだ」という人間解放を目指した精神は、今日においても輝きを失っていません。

学習のポイント②



子どもたちは、明治から大正時代の学習の中で、当時の民主主義を求める動きや、様々な差別の解消を求める運動を学習します。

ここで、全国水平社による運動を学び、差別されてきた人々が、平等や経済的・職業的な自由を要求し、団結して立ち上がった熱い思いに触れます。

9 平等な社会を目指して

日本国憲法は、第二次世界大戦が終わって、1947（昭和22）年5月3日に施行されました。また、当時は日本国憲法について、こんなことを学んでいました。

あたらしい憲法のはなし

（今から60年ほど前、文部省がつくった、日本国憲法についての教科書）

基本的人権について（概要）

人間が生きていくためには、次のような自由が必要です。

○自分の好きなところに行ける。

○自分が思うことが言える。

○自分の好きな教えに従える。

そして、国の力でこの自由を取りあげ、刑罰を加えてはいけません。憲法には、自由は、けっして侵すことのできないものであると書いてあります。

また、私たちは、みんな同じ人間です。ですから、人間の上に、もっとえらい人間はいません。人間の下に、もっといやしい人間もいません。男が女より優れていているということもありません。

みんな同じ人間ですから、差別を受ける理由もありません。

差別のないことを「平等」といいます。

憲法には、自由といっしょに、平等ということもきめています。

学習のポイント



1945（昭和20）年、第二次世界大戦が終わり、日本は民主的国家として再出発しました。「日本国憲法」は、私たち一人ひとりが平等に人間らしく生きる権利を「侵すことのできない永久の権利」として大切にしていこうと述べています。

10 現在の日本の解決すべき課題



1965（昭和40）年には「同和対策審議会答申※1」が出ました。ここでは、同和問題の解決は、基本的人権に関わる課題として書かれています。

そして、行政の責務であること、「国民的課題(わたしたち自身の課題)」であるとも書かれています。

※1 「同和地区に関する社会的及び経済的諸問題を解決するための基本的方策」について審議した報告書

学習のポイント

子どもたちは、同和問題をはじめとする様々な人権問題が、依然として存在していることに目を向けます。その上で、現在の日本が解決すべき課題を捉え、これからの日本が目指す方向を考えて、よりよい社会を築いていくのは自分たちであることを自覚できるようにしたいと考えます。

社会科の歴史の授業で学習してきた人権問題は解決されたのだろうか…。



6年生のある学級担任の話

子どもたちは、日本には様々な差別があり、その解消のためには多くの闘いがあったことを学んできました。人権の世紀と言われる21世紀を生きていく子どもたちは、同和問題をはじめとする様々な人権問題について、正しく考えられる素地を培うことが必要です。日本国憲法制定後も継続する差別を撲滅するために、社会を構成する一員として自分ができることを考えて伝え合い、みんなの力で明るい未来を構築していくのだという気持ちを育てていくことが大切です。

○「新しい日本、平和な日本へ」という授業をした後の6年生の感想です。

選挙権が変わってきたように、差別をなくすために制度を変えることができる。



差別をなくすために、きちんと学んで、正しい知識を身に付けていくことが必要だ。



今まで、様々な運動があって、改善されてきた。たくさんの人の努力がある。



自分の問題として、捉えなければならない。

